

聴覚障害を理解するための動画資料

～「耳が聞こえない大学生の日常～手話とともに～」の活用にあたって～

本映像教材及び指導資料は、聴覚障害や手話について学ぶ小・中学生のために日本財団の支援を受けて「手話教育教材研究会」が2017年に作成しました。

1 はじめに

現在、小学校等では、国語、道徳の時間、総合的な学習の時間等に障害を理解するための学習が行われています。さらに、インクルーシブ教育システムの構築に向けて、障害のある子どもとの交流及び共同学習の機会が積極的に設けられ、その成果が少しずつ実を結んでいます。

聴覚障害に関しては、近年、全国各地において手話言語条例の制定が進み、聴覚障害や手話等についての理解・啓発が自治体レベルで進んでいます。この条例では、地域住民への聴覚障害についての正しい理解及び手話の普及を推進することなどが示されており、小学校等においても、子どもたちに手話や聴覚障害に関する学びを提供することが求められています。

そこで、私たちは、小学校等の先生が聴覚障害及び手話理解のための授業に活用することができる教材を作成することにしました。

これまで聴覚障害や手話についてほとんど接したことがない小学生であっても、本映像教材「耳が聞こえない大学生の日常～手話とともに～」を視聴することにより、聴覚障害や手話について話し合ったり、考えたりすることができますと思います。

そのような学習を通して、聞こえないとはどのようなことなのか、手話とはどのような言葉なのか、もしも、身近に聞こえない人がいた場合にはどう接するとよいのか等を考えるきっかけを作ってほしいと思います。

本映像教材及び指導資料は手話を学ぶためのものではありませんが、映像教材の視聴や話し合いを通して、多く子どもたちが、聴覚に障害がある人を身近に感じ、手話に関心をもってくれることを願っています。

また、手話サークル等で初めて手話の学習に挑戦される方にも、聴覚障害を知る入門教材として活用していただくと幸いです。

2 本映像教材と指導資料の構成と活用方法

(1) 映像教材「耳が聞こえない大学生の日常～手話とともに～」

耳が聞こえない大学生、外園（ほかぞの）君の一日を約10分にまとめた動画です。主人公の自宅、学校での生活の様子を通して、聞こえないということ、手話などについて知ることができます。

映像教材には聴覚障害がある子どもにも会話の内容が分かるよう字幕がついています。また視聴対象を小学校3年生以上としたため、4年生以降で学習する漢字には読み仮名をつけてあります。インターネット等の使用環境がない場合には、一度パソコン等にダウンロードしてご活用ください。

(2) 指導資料 (PDFファイル)

動画教材の流れ、指導者用の配慮事項・補足説明、用語集をまとめています。

(3) ワークシート

動画教材視聴後に感想等を記入させる時にご活用ください。

3 授業の進め方について

1時間の構成、授業の目標は、学級の実態に応じて指導する先生が設定してください。聴覚障害や手話を知らない子どもが多い学級の場合には、

- ・手話を知っているか
- ・手話を見たことがあるか
- ・補聴器を知っているか

等の質問をし、知っている児童の発言(例えば「おばあちゃんが補聴器を付けている。」「テレビのニュースで手話を見たことがある」等)を取り上げてください。その上で、

- ①聴覚障害とは聞こえにくさの障害であること、
- ②手話は聞こえない人が使用する言語であること 等

を伝えた上で、本動画の視聴を行うとよいと思います。

視聴後は、動画からの問いかけや感想を自由に発言させたりするなどして聴覚障害や手話の理解につなげてください。

また、動画ではいくつかの簡単なクイズが出題されます。映像を止めて、答えを考えさせてから続きを視聴するなど、学級集団の実態に合わせてご活用ください。